

地域別検討協議会学区別検討資料(檜山学区)

檜山学区高校配置計画の見込み										
区 分	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)	令和7～13 (2025～2031) 年までの 増減	令和10～13 (2028～2031) 年までの 増減
学区内中卒者数	192	208	212	201	168	172	149	139	▲ 53	▲ 62
対前年増減	▲ 33	+ 16	+ 4	▲ 11	▲ 33	+ 4	▲ 23	▲ 10		
江差町中卒者数	(44)	(38)	(39)	(34)	(33)	(34)	(25)	(17)	▲ 27	▲ 17
対前年増減	▲ 11	▲ 6	+ 1	▲ 5	▲ 1	+ 1	▲ 9	▲ 8		
学校名	令和6(2024)年度の 学科及び募集学級数			R6 (2024) 欠員	令和7(2025) 年度	令和8(2026) 年度	令和9(2027) 年度の見通し	令和10(2028)～13(2031)年度までの見通し		摘要
	普通	職業	計							
単 江 差	2		2	30			0～1学級 に相当する 中卒者の減	4年間で1～2学級に相当する 中卒者の減		上ノ国の協力校
地 上ノ国	1		1	26						再編整備留保
総 檜山北	2		2	30						
中高 *奥 尻	1		1	21						
4校	6	0	6	107						

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。
 注2 学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「地」は地域連携校。
 注3 学校名の*は市町村立学校。

学区の検討事項と現状・課題	
学区の検討事項	現状・課題
○中卒者数の増減に対応しながら、多様な学習ニーズに応える高校配置の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・令和9(2027)年度の定員調整等の検討に当たっては、11人の中卒者の減のほか、欠員の状況、町ごとの中卒者数の状況なども考慮した検討が必要 ・令和10(2028)年以降については、令和13(2031)年までに学区全体で62人の中卒者数の減が見込まれることなどから、学区全体の高校配置の在り方の検討が必要
○地域の取組を勘案した特例的取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・再編整備留保校について、集中取組期間を設け、道教委が所在市町村をはじめとした地域と連携し、高校の特色化・魅力化を進め、入学者確保に取り組むことが必要